

かすのです。そのうえ大きな声を出すので、そういうことが健康につながっているとよくいわれるのです。郷里が長崎ですから、比較的暖かいところで生まれて育ったためか、寒い日より暑いほうが楽です。しかし速記の講演となると、暑い寒いなどいってはおれず、寒い時期に朝鮮や満州まで行ったことがあるのです。満州ではハルピンまで行ったのですが、馬の鼻毛が真つ白に凍っているほどの寒さでした。馬が吐き出す息がそのまま凍ってしまっているのです。朝鮮の平壤では毎朝の新聞に、馱で凍死者があつたと出ているほどの寒さでした。それほどの寒いところを夢中になつて講演して回つたものでした。

昭和六十二年十一月二十六日、「長崎県人誌」を発行しておられる宮浦一郎さんが主催され、東京在住の県出身長老座談会を開かれたことがありました。会場のホテルオークラに私も招待されて出席しましたが、招待された人は四人でした。集まつた人はホテルオークラの名誉会長野田岩次郎さん（九十歳）。この人は私の親友で長崎中学時代の同級生。下村弥一さん（元東亜国内航空会長（九十歳））。白川応則さん（元東北電力副社長（九十二歳）この人は足が悪くて欠席）。それに主催の宮浦一郎さんが八十歳でした。白川さんが明治二十八年十一月生まれ、私は二十八年八月生まれで私が最高齢でした。翌年一月号の県人誌には五人合計四百四十四歳、新春座談会として掲載されました。